

神戸市会政務活動費検査員

令和3年度分検査報告書

令和4年8月9日

1. 検査の意義・概要

【検査の意義】

「神戸市会政務活動費の交付に関する条例」第1条の2に規定されているとおり、会派は、政務活動費の使途について透明性を確保し、市民に対する説明責任を果たす責務を有している。

そして、政務活動費の支出は、「神戸市会政務活動費の交付に関する条例」「神戸市会政務活動費経理要綱」「政務活動費の手引き」など市会にて制定・決定した基準に合致すると会派が判断した場合に限り、その決定がなされるものとされている。すなわち、支出決定者（会派の代表者）は、政務活動費の支出の決定について、責任をもって慎重に判断し、政務活動費を適正に執行する義務を有していると言える。

そこで、第三者である検査員による検査の意義は、政務活動費の支出について、適正な支出手続きに従ってなされているか否かを、第三者が領収書等に基づいて検査することにより政務活動費の適正な執行が担保されることにあると考える。

【検査の概要】

(1) 検査実施日

令和4年6月22日、23日（中間検査を令和3年12月16日に実施）

(2) 検査員

議長の検査を補佐する検査員として議長からの委嘱を受けた以下の3名。（近畿税理士会所属会員かつ登録政治資金監査人登録者の中から同会にて推薦した3名を委嘱。五十音順。）

石川 克則

岩崎 和文（統括検査員）

小林 優子

(3) 検査方法

- ① 検査は、10万円以上の支出については全件について実施し、10万円未満の支出については無作為抽出により実施する。
- ② 検査は、違法、不当な支出など政務活動費の返還が必要となるものの検知を中心として実施する。

2. 検査の結果

令和3年度の政務活動費は、これまでの改善の取り組みなどもあり、**指摘事項**（違法、不当な支出など政務活動費の返還が必要となるもの）は見受けられなかった。

しかし、今回の検査で焦点をあてた資金管理面では、帳票関係において、不備や錯誤が見受けられた。このような状況は、市民の疑念を招きかねないため、早急に手続きの改善が望まれる。

改善にあたっては、市民の皆さんにもご理解いただけるよう、会計年度を意識した資金管理を適切に行っていることを示す書類を議長への提出書類として追加されたい。

このほかにも、経理要綱や手引きなど関連規定に照らして、事務処理上の不備等が散見された。今後、これらの執行については十分留意されるとともに、より適切な執行に努めていただきたい。

3. 総括

政務活動費は、住民が納めた税金が原資であることから、単に、制度や手続きに違反しないだけでなく、使用する際には、常に市民目線に立ち、高いモラルとともにその趣旨目的に沿った効果的な使い方が求められている。

新型コロナウイルスの発生から3年目を迎え、いまだ収束の兆しがみえないものの、社会生活や経済活動は、感染拡大の防止に注意を払いながら、動きを取り戻す局面に差し掛かっており、各党派においても、現下のコロナ禍に対応した新たな取組が求められている。このような状況下であるからこそ、政務活動費の使用に当たっては、より厳格に、より高度な倫理観を反映すべきものと思われる。

今後とも、市民からの期待に応え続けていくためにも、社会情勢の変化や市民感覚とも合致するより適正な政務活動費の執行に努めていただきたい。